

【参考資料】平成22年度 実績報告（白川町森林組合）

作成日：平成23年4月28日

施業集約化	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	50ha	141ha	282.0%	H23予定：67ha	
いつ	4月～3月	5月～12月	/	通年対応を基本とするが、5月中旬～8月末を強化期間とする。	組合座談会期間の後に集中実施 自治会の集会にも積極的に参加
誰が	集約化担当 澤田卓朗	集約化担当 澤田卓朗		集約化担当1名増員予定	前年度の検討を踏まえ実行
どういう方法で	個別訪問(10軒) 地区座談会(2回)	個別訪問(8軒) 地区座談会(2回)		集約化地域の研修会を積極的に開催して施業地の集約化を進める。	対象予定：2団地

植栽	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	1.00ha	0.00ha	0.0%	H23予定：2ha	
いつ	11月		/	伐採作業との労務調整で効率化	
誰が	森林所有者			森林所有者に作業実施を促す。	
どういう方法で	小面積皆伐にあわせて実施			獣害対策等を考慮し実施する。	

下刈・除伐	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	1.00ha	0.00ha	0.0%	H23予定：1ha	
いつ	6月		/	間伐作業との労務調整で効率化	
誰が	森林所有者			森林所有者に作業実施を促す。	
どういう方法で	効果の高い時期に実施			集約化調整時に除伐必要箇所等再精査する。	森林所有者の思いと保育上の必要性を分けて考える。

間伐	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	利用：33ha 切捨：4ha	利用：13.24ha 切捨：16.76ha	40.1%	H23予定：45ha	作業路開設を先行したため、切り捨て間伐へとシフトした。
いつ	4月～3月	9月～3月	/	H23予定：5ha	集約化の状況によって2班体制を検討し、請負業者等も含めて通年で取扱量を増やす。
誰が	素材生産担当 藤井博文	素材生産担当 藤井博文		素材生産担当 藤井博文	
どういう方法で	既設道を起点に作業道を開設し利用間伐	既設道を起点に作業道を開設し利用間伐		施業提案書を活用し、実施箇所をモデルとした施業地を広げる。	既設道路周辺に加え新規開設した作業路周辺で素材生産

作業道(路)開設	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	W=3.0m,L=4,500m	W=3.0m,L=2,156m W=3.6m,L=500m	47.9%	H23予定：W=3.0m,L=5,500m	開設費 W=3.0m 2,000円/m 森林管理路緊急整備事業
いつ	4～6月	4～9月	/	通年(梅雨、降雪時を除く)開設	
誰が	白川町森林組合	白川町森林組合		集約化担当、素材生産担当	担当者増員と合わせて検討
どういう方法で	設計・施工・管理：森林組合直営	設計・施工・管理：森林組合直営		H23以降に基盤となる規格の高い幹線作業道の追加を検討(高密化)	加速化基金事業活用

素材生産	新規チーム設立(H20)	内容			
新規構築作業システム(機械の組合せ、種類・規格・台数)		①伐倒：チェンソー → 集材：ウインチ付きグラブ(0.25) → 造材：チェンソー → 積込・運搬：フォワーダ(3.0t) → トラック(10t) ②伐倒：チェンソー → 集材：ウインチ付きグラブ(0.25) → 造材：枝払い(新規)ハーベスタ → 積込・運搬：フォワーダ(3.0t) → トラック(10t)			
素材生産チーム数(チーム員数)	実施前 → 実施後 (H21) (H22)	1チーム(4人/班)	→	1チーム(4人/班)	
実稼働日数(日)		78		148	
素材生産(m³/人・日)		3.82		3.92	
素材生産費(円/m³)	H21実績		車両系：9,400(10,000)円/m³		
年間素材生産量	計画	実績	達成率	備考	今後の対応
モデル団地内	2,000m³	1,011m³	50.6%	森プロ関係のみ(新規導入機械による素材生産)	集約化を着実に進め利用間伐による素材生産を確実に実施する。
モデル団地外	0m³	1,314m³	-	(リース機にてハーベスタを導入)(フォワーダを1台追加導入)	現場状況に応じてリース機を導入し、新規低コスト作業システムを構築する。
合計	2,000m³	2,325m³	116.3%		

上記のほか、プロジェクト推進のために講じる具体的取り組み			
計画	実績	達成度検証方法	今後の対応
森林施業プランナーの育成(1名)	・森林施業プランナー育成研修出席(1名) ・施業提案書の活用(3件)	森林施業プランナーの育成(人数) 森林施業プランナーによる施業提案書の活用(件数)	森林施業プランナーを2名体制にする。 森林施業プランナー育成ステップアップ研修1名検討する。
先進地視察(2回)	・第2回地域森林管理・経営に関する研修会にて事例報告を行い、林業関係者よりアドバイスをもらった。(森林文化アカデミー) ・群馬県高崎市にて開催された第34回全国植樹祭記念行事2010森林・林業・環境機械展示実演会に出席。 ・第4回全国提案型施業事例発表会に出席して、モデル組合からアドバイスをもらった。	先進地視察数(回数)	・集約化施業に関する視察等研修会に積極的に参加し、課題の明確化と共有化を図るとともに、H23からは課題ごとに克服へのプロセスを箇条書きで記録するシートを作成する。
モデル団地外での普及・啓発	・集約化現地説明会を開催(4回) ・アンケート実施(245通) ・当初間伐予定のない箇所にて1,314m³の素材生産量を確保 ・白川町内で12箇所(1,199ha)の集約化実施計画書を作成 ・長期施業受託契約の締結(84件)	集落座談会、現地説明会の出席者に対するアンケート実施数(枚数) 森プロモデル林の設置数(箇所数) 長期施業受託契約数(件数)	・H22検討した集約化実施計画の実行に向けて、集約化に特化した説明会を開催する。 ・モデル林及び進行中の現場を見学してもらい、集約化・路網整備のメリットを実感してもらう。
素材販売流通システムの確立及び安定供給(森プロ取扱量の50%目標)	・県森連のネットワークシステムによる素材の試験出荷・販売を実施 2,325m³のうち287.819m³(12%)出荷	素材販売流通システムでの流通実績(森プロ取扱量の割合)	県内・地元製材業者への直送販売、県森連のネットワーク販売など、有利な販売先の確保と流通コスト削減に向けた、地域での取り組みを推進する。

【参考資料】 平成20年度 実績報告 (案)

施業集約化(ha)、植栽(ha)、下刈(ha)、除伐(ha)

施業集約化	計画	実績	達成率	今後の対応	
数量	50ha	40ha	80%	H21予定:50ha	人工 天然
いつ	4月~3月	6月~3月	/	通年対応を基本とするが、GW明け~8月末を強化期間とする 集約化担当を1名拡充予定 施業提案書を積極活用した集約化地域研修会を積極的に開催して施業地を集約化	
誰が	集約化担当A氏	集約化担当A氏			
どういった方法で	個別訪問(10軒) 地区座談会(5回)	個別訪問(15軒) 地区座談会(3回)			

切捨間伐(ha)、利用間伐(ha)、主伐[択伐](ha)

間伐	計画	実績	達成率	今後の対応	
数量	利用:10ha	利用:20ha	200%	H21予定:30ha	
	切捨:20ha	切捨:20ha	100%	H21予定:40ha	
いつ	9月~3月	4月~3月	/	梅雨、降雪期間を含めて、出来る限り通年して素材生産 素材生産担当B氏 施業提案書を積極活用した集約化地域研修会を積極的に開催して施業地を集約化	
誰が	素材生産担当B氏	素材生産担当B氏			
どういった方法で	既設道を起点に 列状間伐	既設道を起点に 列状間伐			

作業道(路)開設(W, m)

作業道(路)開設	計画	実績	達成率	今後の対応	
数量	W=3.0m,L=500m	W=3.0m,L=480m	97%	H21予定:1,000m(造林作業路) :500m(緊急管理路)	開設費
	W=3.6m,L=1,000m	W=3.6m,L=980m			
いつ	4~5月、7~12月	5月、7~2月	/	通年(梅雨、降雪時を除く)開設 (株)作業路開設に100%外注予定 速やかな林内路網密度向上のため、作業路の開設に重点化	
誰が	A森林組合	(株)作業路開設			
どういった方法で	設計・施工・管理:森林組合直	施工のみ民間企業に外注			

利用間伐(ha)、主伐[択伐](ha)

「新規チーム設立」or「機械のみ更新」の別を記入

素材生産	新規チーム設立	内容
新規構築作業システム(機械の組合せ、種類・規格・台数)		伐倒:チェーンソー → 集材:(新規)スイングヤーダ(0.4) → 積込:(再掲)スイングヤーダ(0.45) → 運搬:フォアヤーダ(0.45) → トラック(10t)
素材生産チーム数(チーム員数)	実施前 → 実施後 (H19) (H20)	1チーム(3人/班)
実稼働日数(日)		90 →
素材生産コスト(m ³ /人・日)		2.3
その他		

年間素材生産量	計画	実績	達成率	備考	
モデル団地内	1,500	1,280	85%	森プロ関係のみ (新規導入機械による素材生産)	事業 させ 次年 口徑
モデル団地外	1,800	2,000	111%		
合計	3,300	3,280	99%		

各事業計画書に記載された事項を網羅(実施の有無にかかわらず)

計画	実績	達成度検証方法	
森林施業プランナーの育成(2名)	森林施業プランナー育成研修出席(2名) 全国提案型施業事例発表会で発表	施業提案書を積極的に活用した集約化	森 プロ ア
定点観測写真撮影(年5箇所)	定点観測写真撮影(年5箇所)	県〇〇農林事務所HPIに掲載	定 点
地元森林所有者視察見学会(年1回)	地元森林所有者視察見学会(年3回)	アンケート実施(参加者50人)	地 元
地域イベントでの普及啓発(年1回)	H20森と木のふれあいフェアにてPR	会場アンケート実施(回答500枚)	同 イ
NPO等と森の健康診断実施(年2回)	NPO等と森の健康診断実施(年1回)	B新聞(H20.〇.〇〇朝刊)掲載	N P O
作業路管理手法の仕組み構築(協力金の徴収・森林組合での管理)	関係者との検討会の開催(年2回)	市町村森林管理委員会等へ進捗状況を定期的に報告	H 2 2 者 と

森林所有者への森林状況通知(年1回)	森林組合だより発送(年4回)	総会時に組合員へ個別聞き取り	森林
その他			

作成日 : H20.2.29

修正日 : H20.4.1

修正日 : H21.3.10

備考
林: 施業同意レベル 林: 長期受委託レベル

備考
的に新規1チーム設置を検討
道路周辺に加え新規開設した
道路周辺で素材生産

備考
W=3.0m 1,400円/m
W=3.6m 6,000円/m
五十式による作業路開設

別を記入

15) → 造材:(新規)プロセッサ(0.45) ワーダ(4t) → 積込:(再掲)スイング
1チーム(4人/班)
180
4.6
今後の対応
計画を前倒し3年間で終了 る見込み 度以降は、出来る限り森 地内にて施業集中予定

今後の対応
林施業プランナー育成ステッ ップ研修出席(2名)
観測箇所の拡充
森林所有者視察見学会(年1回)
イベントへの継続参加
等と森の健康診断実施(年2回)
年度を構築期限として、関係 の検討会を年2回開催

所有者への森林状況通知(年1回)